



〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷 2-2-39 ハーベストムーン 105 号室
TEL. FAX: 0467-45-7430
E-mail lgjkamakura@nifty.com
<http://www.lovegreenjapan.org/>

発行者 相川 政夫 編集責任者 鈴木 倫子

■ 第2回 草の根技術協力事業 始まる！ (JICA)

ネパール連邦民主共和国で実施のJICA草の根技術協力事業が2017年11月6日に開始されました。今後の事業ではカブレ郡パンチカール市で農薬の過剰使用の軽減化を目指して、野菜栽培の専門家育成、農民の組織化、加工品の製造、販売など、農民と行政を連携した地域の生計向上が2022年11月5日(5年間)に亘って実行されていきます。



■ まちの緑を育て、守る ネパール バネパ市の住民参加型都市緑化推進事業 (緑の募金—国土緑化推進機構)

バネパ市で実施する〈緑の復活事業〉は2018年7月1日付、3年継続事業が採択されました。植林事業は長い視点での取り組みが求められます。都市化の進むネパールの多くの街では開発の波に飲み込まれて、緑は減少していく現状にあります。バネパ市で始まった住民を巻き込んだ植林活動は緑の復活を直接目にする事で、広がりを見せてきていることは確かです。

街路樹を育て管理する習慣のないネパールでは植林への取り組みはありませんでした。バネパにおいて住民個人の思いで始まった木を植える行動は珍しい例です。当会による環境グループへの支援が市住民の緑を増やす意識改革を促進することになりました。

本年度は植林用の苗木を育てる施設を建設して、苗の供給が随時可能となります。木も育ち、行政も植林地の提供&管理等々協力的な対応をとるようになってきています。



■ アナイコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事 (ゆうちょ財団)

当会プロジェクトでアナイコット地区にある有機農業センターは要の施設となっています。2008年ゆうちょ財団の支援により、日本人建築家(平林繁氏)によって設計された施設は女性グループの集会所、住民への野菜栽培農法など各種研修、宿泊に活用されています。

本年度は宿泊施設の改修、シャワー室の増築、トイレの増設、調理場の設置を実施します。事業における持続可能な活動はこうした施設利用により住民たちは家族問題や収入向上への具体的な取り組みに意欲的な参加を促進する機会となっています。

■ ネパール国、カブレパランチョーク郡、パンチカール行政区における地震災害後の生活基盤整備と女性グループを通じた地域の活性化。 (ネパール地震災害福祉活動支援募金 社会福祉法人赤い羽根共同募金)



2016年4月から2年間、災害復興事業として、灌漑設備の修復、収入確保にヤギの配布など中心に地震後の女性たちのメンタルケアなど実施しました。2017年12月下旬には法人の事業視察(大橋正明氏: 聖心女子大学グローバル共生研究所 所長)として現場の訪問を受けました。現在も女性グループは地域において、地震後の回復を目指して、リーダーを中心に持続可能な収入確保を目指して、活動を続けています。

■ ホームステイプログラム（JICA）

8/10～12の2泊3日で、バジャラバラヒ村クンチャール地区でホームステイプログラムが行われました。お客様は、JICA 教師海外研修の参加者と同行者を合わせて13名。プロジェクトサイト見学、学校での防災ワークショップを終えて、いよいよホームステイ先へ、村の男性たちのネワール音楽の演奏と民族衣装に身を包んだ女性たちに歓迎されました。ほぼ初めてのお客様の受け入れに、ホストファミリーもドキドキしていたことと思います。2日目は、まる一日村の生活に、退屈するのではないかと心配していましたが、それぞれステイ先の子どもたちと遊んだり、村の中を案内してもらったり、ハイキングに行ったり、女性たちはクルタ（ネパールの服）を作ったり、生き生きと楽しまれていました。夜は、村の人たちから3年に1度、12年に1度のお祭りの踊りが披露され、ホストファミリーだけでなくクンチャールの人々が集まり、一緒に楽しみました。先生方からはお手製のお好み焼きが、村の人々に一口ずつ振舞われました。皆おそろおそろ口にしながら、美味しい！と嬉しそうに食べていました。不慣れな受け入れ、ハプニングなど色々ありましたが、そんなところも含めて村の生活が味わえたのではないかと思います。



■ バジャラバラヒ村クンチャール地区 絵画&写真展

パタンにあるネワチェンというネワール式建築の宿泊施設内にあるギャラリーで5月10日から12日の3日間、バジャラバラヒ村に住む「農民画家」プロモッド氏の絵画と当会の相川が撮影した写真の展覧会を開催しました。農業をしながら、商品として売れそうなヒマラヤや世界遺産のお寺などを描いていたプロモッド氏に彼の生まれ育ったクンチャールを描いてみるように相川が勧めました。彼が描いた絵を買取り、ちょうど10枚になりました。10枚たまったら個展を開こうと決めていたそうです。まさかそんな企画があるとは思いませんでした。プロモッド氏はすごく驚いていました。

絵画展には、ギャラリーのネットワークを通じて絵画関係の人たちも訪れました。画家として活躍し子どもの絵画教室も開催している女性は、彼の絵を褒め、またこのクンチャールに子どもたちを連れてスケッチに行きたいと言って、現地訪問を実現しました。プロモッド氏は、プロの画家に絵を認められたこと、また、取材を受け、地元の新聞カンティプール紙にも取り上げられたことで、自信がついたことでしょう。

当会が景観保護を進めるクンチャール地区を少しでも知ってもらう新たな試みは、盛況のうちに終わりました。クンチャールの風景や人々を撮った写真の方は、クンチャールの景観保護グループに譲渡し、今後も訪問客に見てもらおう予定です。

【インターン 体験記】

当会では本年度2名の大学生をインターンとして受け入れました。村にホームステイして住民との交流を経験する中で、事業のあるべき姿を一緒に考える機会となりました。

上野 滯加 (インターン当時 中央大学法学部法律学科4年)

2月16日-3月17日の間マクワンプル郡タハ市、旧バジャラバラヒ村に滞在。プロジェクト終了後、当団体とラブグリーンネパール (LGN) が勧める IPM 農法(農薬の正しい使用方法を学び、使用頻度を減らすために地元で採れるものを農薬として使う)を住民たちはどのように行っているかをインタビュー調査(計31人に実施)させて頂いた。ここで調査結果の全容を述べるのは控え、一番伝えたいことを書いてみます。

ネパール人はやる気がない？

滞在中にネパール人について日本人に聞くと「やる気がない」エピソードが多く、「やる気にさせる必要がある」人たとされることが多い。ただ今回自分の周りには運が良いことに通訳の2名を始め、LGNのスタッフの方、村の方はやる気にみち溢れた「協力者」が多かった。LGNの村における功績により協力者がいるということでもあると思うが、インタビュー調査時に同じ地域、カーストの中でも「やる気がない人」と「ある人」がいることに気がついた。「やる気がある人」は常にアンテナをはり、村中に人脈を持つ。双方の違いは何か。インタビュー結果で見るとLGNの研修を受けていない16人のうちLGNを「知っている」と答えた人は9人、「知らない」人は5人、「聞いたことがある」人は2人。その中で4人が「研修を受けたかった」と回答。その理由は「他国への出稼ぎ」が3人、「研修を知った時には定員が埋まっており参加できなかった」が1人。一概に研修に参加していない人が「やる気がない」とくくるべきではないのではないか。この経験「やる気がない」とされる人たちはそのようになるに至る別の理由があるのではと考えるようになった。

(いち学生のインターンのためにサポート頂いた全ての方に感謝致します。)

中杉 淳也 (中央大学総合政策学部4年)

私は2018年8月1日から27日までの一ヶ月余りラブグリーンジャパンのIPM (Integrated Pest Management) 農法に関する調査として、マクワンプル郡バジャラバラヒ村、カブレ郡パンチカール村とカブレ郡アナイコット村にて、住民に対するインタビューと、カウンターパートであるラブグリーンネパールさんのIPM技術者の方々へのインタビューをおこなった。8月7日から12日の6日間、バジャラバラヒ村にて過去にリーダー農家としてプロジェクトに参加された方の家の一部屋を貸していただき、宿泊させていただいた。この6日間は最も密度の濃い、充実したものだった。そして15日から18日にかけてはパンチカール市にあるフィールドオフィスにてIPM技術者の方々とのインタビュー、実際に進行中のプロジェクトサイトにて農場の見学とアナイコット村有機農業センターの見学をさせていただいた。



振り返ってみれば、ネパールに到着してから帰国するまで、終始圧倒されっぱなしの4週間であった。まず、首都カトマンズでは交通量の多さとそのやかましさ、農村では人々の素朴な生活とスマートフォンなどの最新技術の共存に驚かされた。ネパールという国にはまだまだ可能性と、私たちが惹きつける魅力があふれている。今後は農業系の大学院に進学、農業を通じて、ネパールに貢献できること、そこに何が求められるかを考え、関係していきたいと思います。

■ 新4WD車の購入 神奈川県立 厚木高校卒業生 有志による寄付

2017年11月新規草の根事業が開始するにあたり、事業にとって重要なフットワークに新車両の購入が不可欠となりました。特にネパールでは6月頃から始まる雨季は道がぬかるみ、時には川になってしまったり、かなりの悪路になります。農村方面だけではなく、カトマンズの街中もいつ終わるのか分からない道路工事のおかげで悪路が多く、安定感ある4WD車の活躍が求められる現状にこそよく賛同して頂いた県立厚木高校卒業生有志の皆様様の支援によって、インドのマヒンドラ社製の4WD車を希望通りに購入することができました。ご支援ありがとうございました。

■ 職員研修旅行



2018年5/6-8の2泊3日でラブグリーンの職員の親睦を深め、更に働くモチベーションを高めるためにポカラ、シルバリ方面へのバス旅行が企画されました。朝早い出発にもかかわらず、バスの中では、ネパール音楽が鳴っているか、スタッフたちの歌の掛け合いが続いているか、終始賑やかでした。訪問先では写真を撮りまくり、夜はダンスが止まらず、うまい人も不慣れな人も全員引っ張り出されて踊ったり、全てネ

パールペース。途中道が悪く、バスが動けなくなってしまった時は、皆総出で土を運んだり、バスを押ししたり大変でしたが、スタッフ全員とても楽しんでいました。普段の仕事している姿とは違う一面を見せてくれる人もいて、印象に残る旅行でした。たまにはこういう機会もいいですね。



■ 今年も切り干し大根作ります。

マクワンプル郡（タハ市）バジャラバラヒ村 農民シャンカールさんは切り干し大根用の大根を生産して天日干し乾燥、3年目となります。カトマンズ市内の店舗での販売、インドへの輸出や日本での知り合いには好評となってきています。今年もF1種ではない固定種から種を確保しての生産を目指しています。一回目の販売は2018年の暮れ、そして2019年は3月から5月の販売となるでしょう。ネパール産の切干大根、欲しい方はLGJ事務局にお問い合わせください。

■ ラブグリーンネパール G. K. サンガット氏 逝去



2017年12月27日、ラブグリーンネパール（LGN）のエグゼクティブディレクターであったG. K. サンガット氏が逝去されました。享年56歳、心よりご冥福をお祈りします。

サンガット氏は設立当初からのスタッフとして、様々なプロジェクトの中心となり26年間にわたり私たちと一緒に活動してきました。彼がいたからこそ、ここまで活動を継続することができました。スタッフはもちろん、コミュニティの住民からの信頼は厚く、どんな課題にも愛情と誠意を持って対応してくれました。奨学金で学ぶ女子学生たちのために卒業生も含めリーダークラブを作り、村の女性の教育にも力を注いでいました。彼女たちにとっては頼りになる父親のような存在であったと思います。

活動地の拠点であるパンチカールのフィールド事務所で行われたお別れ会には、パンチカール市長、学校関係者、地元のグループの人々、そして奨学生たちと多くの人々が参加しました。多くの人に慕われていた彼の人が思われます。

非常に大きな存在を失ってしまいましたが、彼の志は、彼が育ててきたスタッフ、奨学生、コミュニティの人々に引き継がれていくことでしょう。

■ ラブグリーンネパール 新エグゼクティブディレクター ナラヤン・ゲワーリ氏

2018年7月にナラヤン・ゲワーリ氏がLGNのエグゼクティブディレクターに就任しました。

郡農業開発事務所、ネパール農業研究評議会(NARC)を経て、2003年よりラブグリーンネパールに勤務。プログラムオフィサーとしてサンガット氏を補佐してきました。

ネパール西部パルパ郡の出身、実家はオレンジ農家で、販売を恥ずかしいという理由でしていなかった地域で、オレンジの「販売」を始めたのは彼で、その後地域の人たちが販売して収入を得るようになりました。今も趣味は、柑橘類を育てることだそうです。2012年に日本を訪問、同年被災した東北震災地を視察する経験をしました。



父親は村落開発委員会の議長も務めており、地域のために社会活動を熱心にされてきたそうです。そのような父親を尊敬しており、自身もコミュニティ開発の仕事に非常に誇りを持って取り組んでいます。

責任感が強く、職務を真面目にこなしてきていましたが、サンガット氏が亡き後は、リーダーとしてチームを牽引すべく率先してより一生懸命に動いています。色々なことによく気がつき、とても優しい人です。そしてラブグリーンネパールきってのムードメーカーで、「1日1回は笑わないと」「笑うことは重要だよ」と必ずジョークを言って、いつも皆を明るくしてくれます。また、ダンスも上手で、職員旅行では軽快なステップを披露してくれました。

2017年10月～2018年9月の動き

- 2017年10月 グローバルフェスタに出展
- 2017年11月 JICA 草の根技術協力事業カブレ郡パンチカール市にて開始
6日-12月28日 相川 政夫 ネパール事務所 駐在
24日-12月2日 横浜国立大学 教授 金子 信博氏 パンチカール市土壌調査
27日-12月5日 かごしま有機生産組合 三箇 良治氏・川崎 直人氏 視察
27日 ラブグリーンネパールエグゼクティブダイレクター G・K サンガット氏 逝去
- 2018年1月 7日 ラブグリーンジャパン理事会
ラブグリーンネパール新車両の購入(県立厚木高校卒業生支援)
- 2018年2月 3日 よこはま国際フォーラム参加 活動報告会の実施
14日-5月13日 相川 政夫 ネパール事務所 駐在
16日-3月16日 中央大学 上野 湊加さん インターン受け入れ
- 2018年3月 切り干し大根の製造・販売
23日 龍谷大学 教授 西川 芳昭氏(種苗関係)をアナニコット地区に案内
26日 横浜国立大学、横浜市立大学 学生4名をパンチカール市、パネパ地区案内
- 2018年4月 ゆうちょ財団「アナニコット村有機農業研修センターにおける
女性利用者を配慮した施設改修工事」開始
- 2018年5月 3日-9月30日 鈴木 倫子 ネパール事務所 駐在
6-8日 ラブグリーンネパール・ジャパン スタディツアー
10-12日 クンチャール地区 絵画&写真展 ネワチェン ギャラリーにて開催
ラブグリーンジャパン ネパール事務所移転
- 2018年6月 4-5日 世界環境デーイベント開催
パンチカール市にて化学肥料・農薬削減ラリー・植林
28日 横浜国立大学にてネパールの活動報告会開催(後援:ゆうちょ財団)
- 2018年7月 緑の募金事業「まちの緑を育て、守る パネパ市の住民参加型都市緑化推進事業」
(継続3年目)開始
- 2018年8月 1-27日 中央大学 中杉 淳也さん インターン受け入れ
10-12日 JICA 教師海外研修 バジャラバラヒ村 クンチャール地区
ホームステイ受け入れ
- 2018年9月 3-9日 龍谷大学 教授 西川 芳昭氏 種子の研究 現地調査受け入れ
29-30日 グローバルフェスタに出展



当会の日常活動についてはフェースブック <ラブグリーンジャパン> でご覧ください。

平成 28 年度会費・募金ありがとうございました

(2017 月年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日)

竹田總一郎 飯田よし江 太田輝 三井良子 土岐操 望月よし江 中澤やす子 中沢千恵子
内田ふき野 和泉田初代 久保田洋子、直也 長谷川潤 山下雅人 大石正子 海老澤健
本間ピアノ 大堀研 鍵谷修 坂本洋子 宮原靖代 高柳紘子 鈴木勝雄・芳子 鈴木開、統真
中澤孝 仁科博道 隅田一明 碓賢治 崎坂香屋子 吉井万里子 田中雅子 草野明子 ナカザワ
包材(株)(株)ノーブ(中泉徹) 宮内孝久 石原仁事務所 坂本 鶴田厚子 飯嶋恭子財満忠世 奥
津由紀子 月丘誠一 木島文義 中島啓司 曾根純雄 奥津良博 蛭名 柴一郎 吉田昭 渡邊智
他 匿名希望の方 (敬称略)

<使い捨てテレカ・オレンジカード> 豊島区社会福祉課 より

* テレカ等の換金は低額になりましたが、資金源の一つとして継続いたします。

ラブグリーンネパール新車両 4WD 車の購入 協力寄付者名

木島 文義、笹野 勝己、曾根 純雄、中島 啓司、久保田 直也

昨年度は会費納入をお忘れの方 がいらっしゃいました。年に一度の会報でお知らせして
おります。どうぞ、引き続いてのご支援をよろしくお願いいたします。

皆様のご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。

1口 5,000円 1口 以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

尚 ご意見やご感想なども事務局へ どしどしお送りください。

編集 後記

2017 年 12 月 27 日は辛い日であった。駐在を終えて帰国する日が 26 年間事業を共に考
え実行してきた G.K. サンガット君との別れの日となった。どうしてネパールで NGO 活動を
長く継続できたのか？とよく質問を受ける。その理由の一つは彼の存在である。問題を抱
える住民への思いを開発事業として実現させていくことが私の役割であった。私の人生で
出会ったとても重要なパートナーであったと改めて感じている。現在実施の草の根事業が
開始されて 2 ヶ月のこと、私自身かなり混乱していた中、彼の存在を重要と思っていたネ
パールスタッフたちは彼の意思をしっかりと受け継ぎ、次に向かって動いている。

関係してきた村の住民たちも彼の行動に深い感謝を示している。人生には出会いと別れ
はあるが、その関係性が新しいものを作り上げていく力になって欲しい。彼の存在が我わ
れに活動を通じて多くの可能性を与えてくれていると信じている。 A i